

評価結果公表票

作成日 平成22年7月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0270301633
法人名	医療法人 仁泉会
事業所名	グループホーム 妙水苑
所在地	青森県八戸市大字妙水字分枝43 (電話)0178-30-2778
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年3月12日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年1月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	21人, 非常勤 3人, 常勤換算 22.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1.2 階建ての	1~2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~60,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000 円ほか
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	メディカルコート八戸西病院 シルバークリニック 八戸住宅クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営推進会議を通して町内会の様々な協力が得られるようになり、理念の中に『一地域交流を重視した一、地域の一員として、一』とあるように、地域との関わりが深いホームである。
 法人内に10の委員会があり、全職員はいずれかの委員会に所属し、勉強会等に参加後はホーム職員に伝達している。研修体制も充実しており、積極的に資格取得の支援をするなど職員の育成に取り組んでいる。
 ホームに看護師を配置し、法人内の医療機関に24時間いつでも相談できるほか、法人内の複数の施設やサービスとの連携もあり、利用者や家族が安心できるよう医療連携体制が整っている。
 利用者の力量や意向を把握し、得意なことやこれまでの経験を発揮できる場を設けて、菜園や庭造り、将棋など職員が教わりながら、利用者と職員が同じ目標に向かって役割や楽しみごとを共有し、生活している。
 居室や日中玄関・ベランダの出入りに施錠せず、職員は利用者の行動パターンを把握し、外出時は付き添う等の支援をしている。やむを得ず施錠を行う場合は、家族に説明し同意を得ているほか、無断外出時に備えて、地域ネットワークに加入したり、近隣からの協力が得られるよう働きかけている。

【特に改善が求められる点】

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価において特に改善する点はなかったが、外部評価の結果を運営推進会議や職員会議で検討しており、より良いホーム作りを目指して取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はユニット毎に全職員で検討し、作成している。職員は評価を行うことは、より良いサービス提供への意識を持つきっかけになると捉えて、自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、町内会長、民生委員、家族代表等が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議では、運営状況、活動計画・活動報告、研修計画・研修報告、自己・外部評価の結果を報告し、意見交換を行い、今後の取り組みにつなげている。</p> <p>また、メンバーから消防団や地域行事の人材を紹介してもらうなど、災害対策や地域交流等さまざまな協力が得られる機会となっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時は、困っていることや要望など、何でも話してもらえるよう声掛けを行っているほか、各ユニット毎に意見箱を設置したり、運営推進会議への参加を呼びかけている。</p> <p>重要事項説明書にホーム内苦情受付窓口と、市介護保険課と国保連などの外部窓口を明示し、出された意見・要望を日々のサービスに活かすよう会議等で検討し取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内に広報紙を配布し地域住民に周知しており、気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけている。町内会に加入し、地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加を呼びかけたりし、地域との交流に努めている。地域の祭りの際介護相談コーナーを設け、地域住民の相談に応じる取り組みを行っている。地域のボランティアを受け入れており、また、見学や相談はいつでも応じており、地域との交流で得られる協力を還元する取り組みを行っている。</p>

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>全職員で作成した独自の理念に基づいた支援ができるよう、利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛け、理念を意識したサービスの提供に取り組んでいる。</p> <p>年間の研修計画を作成し、外部研修への参加や資格取得の支援など、積極的に職員の育成に取り組んでいる。</p> <p>八戸市・青森県のグループホーム協会に加入しており、交流・連携を図っている。また、法人内のグループホーム間で情報交換や交換研修を行い、日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>相談受付段階から利用者の思いを尊重し、安心してサービスが開始できるよう生活歴などの情報を収集し、これまでの生活と変わらないよう、これからの生活に不安がないよう、十分に話し合いを行っている。</p> <p>利用者の力量や意向を把握し、得意なことやこれまでの経験を發揮できる場面を設け、菜園や庭造り、将棋など職員が教わりながら、日々の生活を共にし、支えあう関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者がその人らしく生活できるよう、アセスメントシートを活用して利用者の状況を把握し、介護計画に活かしている。介護計画作成時には、利用者や家族の意向や希望を可能な限り取り入れ、全職員の意見や気づきを基に検討している。</p> <p>ホームに看護師を配置し、法人内の医療機関と連携し24時間いつでも対応できる体制を整えている。また、重度化や終末期の対応についてホームの指針が作成されており、健康管理や急変時の対応について利用者や家族、医療機関と随時意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者のその日の体調や表情、言動を観察し、状態に合わせた支援を、個々のペースに合わせて行っている。菜園・庭造り・習字・掃除・後片付け等、できる事を役割や楽しみごととして、生き生きと暮らせるよう支援している。</p> <p>日中居室や玄関・ベランダの出入り口に施錠せず、職員が見守りすることで、利用者は自由に出入りすることが出来る。また、職員は利用者の行動パターンを把握し、外出傾向を察知し、外出時は付き添い等の支援をしている。やむを得ず施錠を行う場合は、家族に説明し同意を得ているほか、無断外出時に備えて、地域ネットワークに加入したり、近隣からの協力が得られるよう働きかけている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『私達は個別性と地域交流を重視した心地良い生活環境を提供し、地域の一員として、常に笑顔を絶やさず暖かいおもてなしを目指します。』という独自の理念を全職員で作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝唱和したり、ホーム内に掲示するなどして全職員で共有しており、利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛け、理念を意識したサービスの提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会長の協力を得て、町内に広報紙を配布して地域住民にホームの周知を行い、気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけている。また、町内会に加入し、地域行事に参加したり、ホームの春祭りへの参加を呼びかけたり、地域との交流に努めている。地域のボランティアが交代で来所し、話相手やホーム周辺環境整備の協力を得ているほか、ホーム見学や相談をいつでも受け入れており、新井田城祭り際には介護相談コーナーを設けるなどの取り組みを行っている。ボランティア受け入れの際には利用者のプライバシーについて説明を行い、誓約書を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解しており、評価結果を踏まえて、より良いサービス提供への意識を持つきっかけとしている。自己評価は全職員で作成しており、外部評価結果を基に、職員会議や運営推進会議で改善策の検討を行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族にも積極的に運営推進会議への参加を促しており、メンバーの出席率はよい。また、メンバーから、消防団や地域行事の人材等の紹介があるなど、会議を通して地域との交流が深まっている。会議では自己・外部評価の結果を報告し、話し合い、サービスの向上に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へホームのパンフレットを配布しているほか、自己・外部評価の結果を報告し、ホームの実態を理解してもらうよう働きかけている。また、事業所の運営に関わる相談や指導、最新情報が得られるよう連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部・外部の研修を通し、全職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解をしている。ホーム入居当初から制度利用者が1名おり、必要に応じて活用につなげる体制が整っている		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部の研修を通し、全職員が高齢者虐待防止関連法について理解しており、日々のケアで、口調や態度に注意を払うなど、虐待が見過ごされることのないよう気を配っている。また、虐待防止に関するマニュアルを作成しており、発見した場合の対応方法等について、全職員が理解しているほか、管理者・職員間で報告し合えるような関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を基に、ホームの理念やケアの方針等について説明しているほか、利用者・家族から疑問・意見をゆっくりと聞くよう努めている。契約改訂や退居の際には十分に説明し、同意を得ている。さらに、退居先の情報提供を行うなど、利用者や家族等が不安を生じないように支援している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	実施した行事や受診状況、連絡事項等、利用者の暮らしぶりをホーム便りに載せ、時には写真も同封して毎月送付している。金銭管理の状況について、領収書を添付した出納帳のコピーを毎月送付している。職員の異動等、変化があった時にはホーム便りに記入し報告するほか、面会時に随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は、困っていることや要望など、何でも話してもらえよう声掛けを行っているほか、各ユニット毎に意見箱を設置したり、運営推進会議への参加を呼びかけている。重要事項説明書にホーム内苦情受付窓口と、市介護保険課と国保連などの外部窓口を明示し、出された意見・要望を日々のサービスに活かすよう会議等で検討し取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、職員の異動は最小限に抑えている。また、ユニット間でスタッフが協力し合い、普段から利用者と同様になるよう配慮している。異動を行う際は、利用者十分に説明し、また、詳細な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの学習計画、法人の勉強会、トレーナー制度等、職員の育成に取り組んでいる。また、年間研修計画を作成しており、職員の経験年数や力量に応じて、各種研修に派遣している。研修受講後は報告書を作成し、伝達研修を行って全職員が情報を共有している。職員のスーパーバイザーとして法人の総看護師長を相談役として確保している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム間で合同会議があり、情報交換や見学を行っているほか、県・市のグループホーム協会に加入しており、連携を図っている。また、法人内グループホーム間での交換研修(一日交換体験)を実施しており、職員の育成に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付段階から、利用者の思いを尊重し、安心してサービスが開始できるよう生活歴を十分に把握するほか、これからの生活に不安がないよう十分に話し合いを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園、庭造りほか、習字、将棋など、利用者の得意なことを職員が教わるほか、八戸七夕まつりの七夕飾りを利用者と職員と一緒に制作し、毎年受賞を目指して取り組むなど、日々の暮らしの中で喜怒哀楽を基にし、支え合って生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望、意向を日々の生活の中から把握できるよう努め、家族の面会時にも情報収集している。また、月1回ユニットカンファレンス行い、職員間で気づきや問題点を話し合い、利用者の状況把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、全職員の意見や気づきを基に検討している。また、利用者や家族の意見・希望を可能な限り取り入れ、個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を介護計画に記載しており、3ヶ月毎に見直している。利用者の状況や家族の希望に変化があった場合は随時見直しを行い、関係者から情報収集し、再アセスメントを行っている。日々の生活の中から一人ひとりの状態の変化を見逃さないよう観察に努めるほか、面会時等に家族から意見・希望を聞いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに看護師を配置しているほか、法人内の医療機関と連携体制を整え、24時間対応可能である。また、法人のリフト付車両での外出や移送など、柔軟に対応している。新井田城祭りに介護相談コーナーを設け、地域のニーズに応えるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族から希望を確認し、これまでのかかりつけ医を受診する際は、情報提供書を持参している。基本的に家族が送迎しているが、送迎困難な場合は、法人内の訪問診療の利用が可能である。法人内の訪問看護やホームの看護師が健康管理に配慮し、24時間相談できる体制が整っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は、医療中心のケアが受けられるよう、法人内の専門的な施設に移るようになっており、利用者・家族に説明し、同意を得ている。日常の健康管理や急変時の対応については、随時利用者や家族と話し合い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の呼び方については本人や家族から確認している。また、個々に合った声がけに努め、介助時等の羞恥心に配慮している。職員は個人情報保護法について、個人情報委員会などの研修を通して理解を深めている。さらに、利用者の個人ファイル等は人目に付かないよう、スタッフルームに保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の生活に沿った業務に努め、利用者一人ひとりの希望に応じている。また、その日の体調や表情を観察し、利用者個々のペースに合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に利用者の嗜好や希望を把握している。献立は法人内の管理栄養士が1か月分作成し、外部から食材が配達されている。利用者は調理の準備や後片付けなど、その日の体調に応じて職員と一緒にいる。職員は食べこぼし等のサポートを行いながら、利用者と一緒に食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の習慣や好みを入居時に把握し、週2回の入浴となっているが、利用者の状態や希望に応じて入浴時間等に対応している。また、入浴に対する羞恥心に配慮し、同性介助を行っており、入浴を拒否する場合は無理強いせず、タイミングをみて再度声がけを行うなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に利用者の生活歴や意向、力量等を把握し、ホームでの生活の中から出来ることを見つけ、促している。菜園や庭造り、手芸、習字、掃除など、役割や楽しみごとを通して生き生きと暮らせるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出掛けているほか、お花見やお祭り、ドライブ、利用者の希望を取り入れた外食なども行っている。利用者の身体状況に合わせ、法人のリフト付車両を利用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、内部・外部研修にて学習し、職員は理解を深めている。また、マニュアルを作成し、身体拘束を行わないケアに努めている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、その理由や方法・経過を記録に残し、家族等に説明し同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関・ベランダの出入りに施錠せず、職員が見守りすることで、利用者は自由に出入りすることが出来る。また、職員は利用者の行動パターンを把握し、外出時は付き添う等の支援をしている。やむを得ず施錠を行う場合は、家族に説明し同意を得ているほか、無断外出時に備えて、地域ネットワークに加入したり、近隣からの協力が得られるよう働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した避難誘導訓練を利用者も参加して実施している。また、消防署との連携が図られており、運営推進会議でも話し合わせ協力が得られるよう働きかけている。さらに、非常食やポータブルトイレを各ユニット毎に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作成しており、季節や高齢者に配慮した食事が提供されている。また、栄養摂取状況等について指導や助言が得られる体制となっている。1日の総摂取カロリーは1,650kcal、水分摂取量は1,000mlを目安にし、摂取量の記録をしている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、感染症予防委員会等での研修を通じて職員は理解を深めている。また、保健所から最新情報を収集し、早めの対応やマニュアルの見直しに役立っている。得られた情報はホーム便りに掲載したり、ホーム内に掲示することで、利用者や家族等にも周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファや観葉植物、食卓テーブルを設置し、家庭的な雰囲気となっている。また、ホールや廊下には、作品や写真が掲示されているほか、手作りのおひな様や窓から見える景色で季節を感じることができる。職員の立てる物音や話し声、テレビの音量は適切で、室内の明るさも快適である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んでもらえるよう家族に働きかけており、仏壇や鉢植え、写真などが持ち込まれている。また、利用者一人ひとりに合わせた居室作りを行っており、居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※ は、重点項目。